

船舶事故調査報告書

平成24年7月26日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成23年6月10日 04時00分ごろ
発生場所	長崎県平戸市平戸島東方の平戸瀬戸広瀬 平戸市所在の広瀬灯台から真方位225° 150m付近 （概位 北緯33° 22.8′ 東経129° 34.1′）
事故調査の経過	平成23年6月13日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 第七日 昌丸 ^{にししょう} 、499トン 135649、星野汽船株式会社 76.23m×12.00m×7.01m、鋼 ディーゼル機関、1,323kW、平成10年9月
乗組員等に関する情報	船長 男性 58歳 三級海技士（航海） 免許年月日 平成8年7月9日 免状交付年月日 平成23年3月28日 免状有効期間満了日 平成28年7月8日 一等航海士 男性 58歳 四級海技士（航海） 免許年月日 昭和61年10月3日 免状交付年月日 平成19年11月6日 免状有効期間満了日 平成24年11月5日
死傷者等	なし
損傷	左舷中央部喫水線下に破口及び左舷側ビルジキールを曲損
事故の経過	本船は、船長及び一等航海士ほか3人が乗り組み、全速力の約14ノット（kn）の対地速力で手動操舵により平戸瀬戸に向けて北進中、船長が、次直の一等航海士が予定の当直交替時刻よりも早く昇橋してきたので、同様に狭水道の通航に慣れさせるため、平戸瀬戸を通過するまで在橋することとし、一等航海士に操舵を任せた。 一等航海士は、平戸市所在の平戸牛ヶ首 ^{うしがくび} 灯台西方沖を通過後、平成23年6月10日03時59分ごろ、平戸瀬戸北口中央に存在する広瀬の南南西方沖で東水道へ向けるため、周囲の灯台を見ながら小舵角の右回頭を始めた。 船長は、いつもは東水道の中央に向けて大舵角で回頭していたが、東水道の方向に反航船の灯火が見えていたので、一等航海士が小舵角で回頭しているものと思い、小舵角での回頭を続けさせた。

	<p>船長は、一等航海士が右舵を取っているものの、平戸市所在の広瀬導流堤灯台の灯光が左舷船首方に接近したので、危険を感じて操舵を交替し、右舵一杯として回頭中、04時00分ごろ、本船が、広瀬導流堤付近の浅瀬に乗り揚げ、それを乗り越した。</p> <p>船長は、船体の損傷状況を確認したところ、浸水もなく、通報した海上保安庁の指示で長崎県松浦市沖まで自力で航行した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南、風速 約6～7m/s、視程 約8km</p> <p>海象：潮汐 下げ潮末期、潮流 約0.3kn（北東流）</p>	
その他の事項	<p>本船の喫水は、船首約1.90m、船尾約3.30mであった。</p> <p>一等航海士は、漁船での平戸瀬戸の通航経験はあったものの、内航船での通航は初めてであり、また、夜間の通航も初めてであった。</p> <p>一等航海士は、操船に就いた際、船長から灯台を見ながら、水路の中央を航行するよう適宜に操船することを指示されていた。</p> <p>船長は、一等航海士が東水道に向けて徐々に右転していたとき、舵の取り方が小さいと思っていたが、何とか曲がるだろうと思った。</p> <p>船長は、平戸瀬戸通航時、いつも全速力で航行していた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、平戸瀬戸の広瀬南南西方沖で同瀬戸の東水道に向けて右転する際、船長が、操船を任せていた一等航海士が取った右舵の舵角は小さいと思ったものの、回頭できると思い、同じ舵角での回頭を続けさせたことから、広瀬導流堤灯台の灯光が左舷船首方に接近し、危険を感じた船長は操舵を交替して右舵一杯としたが、広瀬に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、一等航海士が内航船での平戸瀬戸の通航も夜間の通航も初めてであったものの、同瀬戸の通航に慣れさせようとして操船を任せていたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、平戸瀬戸の広瀬南南西方沖で同瀬戸の東水道に向けて右転する際、船長が、操船を任せていた一等航海士が取った右舵の舵角は小さいと思ったものの、同じ舵角での回頭を続けさせたため、広瀬導流堤灯台の灯光が左舷船首方に接近し、危険を感じた船長は操舵を交替して右舵一杯としたが、広瀬に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船長は、操船状況に注意し、舵角に疑念を感じたときは、速やかに操舵の指示を行うこと。 	